

令和6年

目黒区教育委員会

第25回定例会会議録

(令和6年7月16日開催)

第25回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 令和6年7月16日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	関根義孝
	教育委員会教育長職務代行者	川嶋春奈
	教育委員会委員	片山 覚
	教育委員会委員	若井田正文
	教育委員会委員	松村 真理子

出席職員	教育次長	樫本達司
	教育政策課長	高橋直人
	学校統合推進課長	西原昌典
	学校運営課長	関 真徳
	学校ICT課長	藤原康宏
	学校施設計画課長	岡 英雄
	教育指導課長	寺尾千英
	教育支援課長	末木 颯子
	統括指導主事	鈴木将大
	統括指導主事	佐藤泰之
	生涯学習課長	斎藤洋介
	八雲中央図書館長	坂本 祐樹

書記		小見哲一
		松園 拓人

(議事日程)

- |       |      |                                  |
|-------|------|----------------------------------|
| 日程第 1 | 協議事項 | 令和 7 年度使用目黒区立中学校教科用図書<br>の採択について |
| 日程第 2 | 報告事項 | 令和 6 年度学級閉鎖等の状況 (7 月 1 2 日現在)    |

(午前9時30分開会)

- 教育長 令和6年第25回目黒区教育委員会定例会を開会します。本日の欠席委員、欠席職員はいません。署名委員は松村委員です。ただいま傍聴の申請がありましたのでお諮りします。傍聴を許可したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それでは、傍聴を許可することとします。  
なお、以後、傍聴の申請があった場合には、22人までその都度許可することとし、委員の皆様にはお伝えすることはいたしません。  
それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 令和7年度使用目黒区立中学校教科用図書の採択について  
(協議事項))

- 教育指導課長 (資料により説明)  
○教育長 ただいま事務局より説明がありましたが、本日も前回に引き続き令和7年度から目黒区立中学校で使用する教科用図書について、「調査研究委員会報告書」及び「学校調査報告書」を参考に、実際の教科書も見えていただきながら、協議を進めていきたいと思えます。

資料1の採択日程のとおり、本日は「数学」、「理科」、「技術」、「家庭」、「英語」の5種目について協議します。

前回、進め方について確認しましたが、7月30日及び8月20日の協議で各種目の候補を1社に絞る予定です。発行者数が多い種目については、一定程度の絞り込みを本日も行っていきたいと思えますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それでは、そのような日程で進めていきたいと思えます。  
なお、前回同様、協議の際に呼ぶ各教科書の発行者名は、お手元の資料2、発行者一覧に記載の協議用記号のアルファベッ

トで発言いただくようお願いします。

○教育長

それでは、数学から協議を始めます。

数学は7社ありますので、この中から本日は3社に絞りたいと思います。

○委員

私はC社、G社、B社の3社を選びました。

まずC社は、解き方の解説が見やすく、例題や演習問題の数も多いため、生徒が繰り返し学習するのに適した教科書だと思いました。また、解き方の解説については、2次元コードを活用することで、教科書に記載しきれない部分まで深く理解できるところが良いと思いました。さらに、コラムも興味が湧くような内容だと感じました。

続いて、B社も解き方などの解説が見やすく良いと思いました。また、数学にまつわる職業の紹介や、実務の世界と数学をつなぐエピソードが掲載されており、生徒が数学に興味を持つことができるのではないかと思います。

次にG社についても、問題数は多くありませんが内容が充実していると感じました。また、数学の自由研究について書かれているページが生徒の興味を引くと思い、全体的にそのようなコラムが充実していると感じました。

○委員

学校調査報告書等も参考にしたうえで、B社、C社、G社の3社を選びました。

B社についてですが、まず「日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせるこれからの数学」という表紙のタイトルに惹かれました。また、「学習に役立つコンテンツ」の説明があり、実際に教科書を読み進める中で、非常に分かりやすいと感じました。2次元コードになっているそのコンテンツは「Linkイメージ」や「Link資料」など様々あり、例えば円周率や数学で用いられる英単語などが分かりやすく書かれています。視覚的にとてもシンプルで理解しやすく、やる気が起きる構成だと思いました。

次にC社です。こちらも2次元コードが非常に分かりやすいと感じました。また、C社は現在使用している教科書であり、学校調査報告書における教員のコメントが概ね良好であることから採択候補に選びました。

続いてG社ですが、2次元コードを紙面上で見ただけでは内容が全く分からず、開く気が起きませんでした。ただし、図、

写真、イラスト、キャラクターの使われ方や、ページの色味が非常に良く、穏やかな気持ちで読める教科書だと思いました。

○委員

A社、F社、G社を選びました。

A社は数学への興味が湧くように、「数学の学習を始めよう」、「数学的な見方・考え方を身につけよう」、「ICTを活用しよう」などが各学年の各章に順序よく設定されていて、解き方についても詳しく説明されていると思いました。さらに、巻末の「ふり返しシート」が復習に役立つと感じました。図形も大きくて分かりやすいと思います。また、「小町算」や「地震のP波とS波」などを説明している「数学研究室」も興味を引くような内容でした。表紙も素晴らしいと思います。

次にF社ですが、中学校で初めて学ぶ方程式や比例・反比例についての導入が非常に分かりやすいと思いました。また、各章のまとめ問題が的確であり、解説も分かりやすいと思いました。図形も大きくて理解しやすいと感じました。さらに、数学とプログラミング、数学とSDGsの関係などが掲載されている点も生徒の興味を引くと思いました。

G社は、「MATH CONNECT」というテーマが、各学年、各章で一貫しており、興味が湧くように編集されていると思いました。また、各学年の巻末の「数学の目でふり返ろう」では、数学的な現象やものの見方がしっかりと説明されており、数学を好きになるような工夫がされていると思いました。点字の説明もあり、これも斬新だと思いました。

○委員

現在の社会を生きるうえで重要になっている、様々な数学的な考え方が生徒に分かりやすく示されているかどうかに着目して選びました。また、私は数学は言葉だと考えており、言葉の力がつくことは数学力を高めるうえでも非常に重要なことだと考えています。その点についても評価しました。

全体の感想としては、どの教科書もデジタルコンテンツが豊富であり、他教科や社会・日常生活との関係についても工夫されていると思いました。

本日は3社に絞り込むということですが、私はA社とE社の2社を推薦します。C社も良いと思いますが、C社は1年生の教科書で、マイナス掛けるマイナスがプラスになることについての導入が、他の6社がベクトル的な考え方をを用いて説明しているのと異なり、マイナス掛けるマイナスはプラスになるは

ずだと、類推的に説明している点が理解しづらいと感じました。1年生にとってはマイナス掛けるマイナスがプラスになるということが1つのハードルだと思うため、C社を選びませんでした。

続いて選んだ2社について述べます。まずA社は、本文中で用いられている数学的な見方や考え方について、すぐ隣に適切な説明があるため、繰り返し意識して学ぶことができると感じました。そして何よりも式変形の説明がとても丁寧で、中学生にとって分かりやすいと思いました。さらに、例題とその回答例がノート風の枠内に記載され、解き方の流れが示されているため、生徒がどのように言葉を使って回答していくかを学ぶことができると感じました。また、章によって「学び合おう」という小さな節があり、「見通しをもとう」「めあて」「考えよう」「話し合おう」「ふり返ろう」「深めよう」という言語活動を活発に行う教材が準備されている点も良いと感じました。加えて、本文中の問いに「話し合おう」というマークや「説明できるかな」というマークがついていて、自分の考えを言葉によって表現することを促すマークがあるのも良いと感じました。また、巻末の「数学マイトライ」の内容が多様で、数学への興味・関心を高める内容になっていると感じました。その教材の中に「数学レポートを書こう」という提案もあり、言葉を用いて活動するという点でとても良いと感じました。

次にE社です。E社もまず、数学的な見方、考え方が適切に示されていると感じました。また、自分の理解したところを振り返り、確認して言葉で表現することを促すような提案や、新しい内容ごとに問題、課題提起があり、それらについて言葉によって話し合う活動が多いところも良いと感じました。問いや例題にも説明を求めるものが多いと感じました。さらに、例題の模範解答を四角で囲い、本文とは別のフォントで示しているのは、A社と同様に非常に見やすいと感じました。加えて、章末に「基本・応用・活用」の3段階のまとめ問題がついており、「活用」では、日常生活や社会問題について考えることができるような問題が多く見られました。また、「深めよう」や、数学の世界へ導くティーブレイク「数学へのいざない」という教材もあり、E社も良い教科書だと思いました。

○教育長

私はA社、C社、F社を選びました。

A社については、本文の記述が非常に丁寧であることはもちろん、それ以上に教科書全体として子どもたちへの働きかけ方が面白いと感じました。まず、「身近な事柄を数学の問題にする」というコンセプトは、中学生に数学の必要性や面白さを伝えるうえで重要な視点だと思います。また、生徒に対して、数学の学習を通して身につけることを期待する4つの態度を示しており、例えば「多面的に捉え、考えようとする態度を自ら取ることができるようになってほしい」といったメッセージの出し方が他社にはない特徴的なものでした。さらに表紙を開くと、例えば1年生の教科書では、円柱と球体と円錐が並んだシンプルな写真に「3つの立体の体積の比は？」というキャプションがついており、このような見せ方が生徒に数学的な刺激を与えるものだと思います。こうした全体のつくり非常に惹かれました。

次にC社です。まず導入部で教科書の使い方や学習の進め方が示されていることは各社共通ではありますが、その中でもC社が最も丁寧に記載していると感じました。特に算数から数学への移行となる1年生にとって非常に役立つと思いました。また、各章の章末問題のほかに、巻末に「数学広場」というページがあり、そこでは算数の振り返りや、数学の1年間の振り返り、さらには高校入試問題などにも少し触れていて、学習意欲を高めるものになっていると思いました。各ページのレイアウトや色使いも落ち着いていると感じました。また、1年生の教科書はページ数が299ページであるため扱いやすいと思います。全体的にどの科目も、300ページを超えるとやはり厚さ、重さを感じました。

続いてF社については、まず、本文中の用語の説明が非常に分かりやすく、算数で習った用語の振り返りも適宜盛り込まれているため、基本的な部分がしっかりと押さえられていると感じました。それと同時に、巻末の「もっと数学の世界へ」というページに収められている課題学習と読み物が非常に面白く、生徒にはこれらから刺激を受けて、ぜひ数学や科学の世界を扱った本を積極的に手にしてもらい、豊かな学びをしてほしいと思わせる教科書でした。

以上から、私はA社、C社、F社を推すこととしました。

○教育長

皆さんからご意見を伺いましたが、A社、C社、G社の3社



とがどう世の中で役に立っているのかが示されていると思いました。

次にE社ですが、巻頭に各章で学ぶ内容が示されており、巻末にこの教科書で得た知識のチェックができるように構成されているところが良いと思いました。また、各学年の表紙に2ページにわたる大きな写真があり、これから何を学ぶことができるのだろうという生徒の好奇心を掻き立てる、印象的なレイアウトだと感じました。さらに、E社は中学生の理科で特に理解が難しいと感じる水溶液や電圧・電流に関する説明が非常に分かりやすいと思いました。また、大きな写真やイラストが多く使われており、文章を読まなくても内容が理解できるのではないかと思うほどでした。特に神経系の脊髄反射の絵がすばらしく、驚くとともに感心しました。さらに、「社会につながる科学」や「お仕事図鑑」は、理科を勉強する目標になる内容だと感じ、非常に興味深いと思いました。

#### ○委員

B社とC社を選びました。

B社は章の初めに「これまでの学習」と「学習前の私」という簡潔な問題提起があり、それに続く各単元で、「疑問を見つける」、「課題を決める」、「仮説を立てる」、「計画を立てる」、「実験する」、「考察する」、「結論を示す」という流れになっており、非常に分かりやすい構成だと思いました。また、本文中に基礎技能のページがあり、「理科室のきまりと応急処置」や「ガスバーナーの使い方」などが分かりやすく示されていると思いました。さらに「やってみよう」、「チャレンジ」、「参考」というコーナーは、生徒の興味・関心を引き、実験や観察に対する意欲を高めることができると思いました。加えて、実験がイラストと文章で丁寧に解説されており、その結果については写真で理解できるように工夫されていると感じました。また、「ハローサイエンス」というコーナーでは、科学の発展の歴史や最先端の成果などを紹介しており、科学に対する興味・関心を高め、主体的に学ぼうという意欲を育てる内容になっていると思いました。本文中の写真、図、イラストの配置も良く、章末の「要点と重要用語の整理」で自分の理解度を確認できる場所も良いと思いました。

次にC社もB社と同様に、単元が「気づき」、「課題」、「仮説」、「計画」、「方法」、「結果」、「考察」という流れで

構成されているところが良いと思いました。さらに、多くの単元でこれらの流れの全体を「探求」としてまとめている点が非常に良いと思いました。また、「理路整然」というコーナーが科学的な思考を育むうえで有用だと感じました。私は、科学の基盤は理性だと考えており、理性の起源は疑問を持つことだと思います。「理路整然」ではその疑問をたくさん投げかけており、画期的な内容だと思いました。例えば1年生の教科書では「どうする、伝える・伝わるコツ」、「どうする、物質の性質の考え方」、「どうする、結果と考察」など、様々な問題提起をしており、疑問を持つという点でとても良い内容だと思いました。写真、図、イラストの配置も良いと思いました。また、各章の初めの「C a n - D o L i s t」で、どのような知識・技能を身につけるのか、理解したことをどのように使うのか、どのようになりたいかという目標がまとめられていて、とても良いと思いました。巻末資料で実験器具や観察器具の使用方法、薬品の取扱いなどが丁寧に示されているところも良いと思いました。

○委員

理科はA社とB社を選びました。

まずA社についてですが、全体的に写真やイラストが整理されていて見やすく、分量も適切であると思いました。また、実験方法の写真も整理されていて、見やすいと感じました。さらに、「学習のまとめ」、「力だめし」、巻末の「探Qシート」の設問が、自分の理解度を確認するためのドリルとして使えると感じました。それ以外にも「考えてみよう」、「発表してみよう」、「活用してみよう」という、生徒のさらなる思考や意見を表現する活動を促すコーナーがあるところも良いと思いました。

次にB社についても、全体的なバランスや分量が良いと感じました。加えて、各単元に「要点と重要用語の整理」、「基本問題」、「活用問題」があり、自分の理解を深めることができる工夫がされていると思いました。また、思考を深めるという意味では、「疑問から探究してみよう」のコーナーが活用できるのではないかと思います。元素の周期表が裏表紙の見やすいところに配置されているところも利用しやすいのではないかと思います。

以上の理由で、A社とB社を選びました。

○教育長

理科は5社のうち4社が他の教科より判が大きく、少し取り扱いが大変だと思いました。しかし、子どもたちの理科離れが盛んに言われている中で、この判の大きさを生かした効果的な写真や図表に期待しながら目を通しました。

その中で選んだ2社は、A社とE社です。

A社については、1年生の「地層のはぎ取り調査」、2年生の「マメハチドリ」、3年生の「宇宙のガスとチリ」などの写真が非常に生徒の好奇心をそそるものであり、動物写真なども精選されていると感じました。また、「動植物の分類図」や「自然のもたらす恵みと災害の対比」など、レイアウトや色合いも良いと思いました。そしてA社で特徴的なのが、巻末についているシートです。テーマごとに課題の設定、仮説の設定から、観察、実験を経て、結果の確認から考察までの一連の流れを整理できるつくりになっており、基本的な科学的態度を身につけるうえで非常に有用であると思いました。

次にE社です。まず表紙を開いたページの導入部が、科学の面白さを重々しくならず親しみやすく伝えており、編集のセンスの良さを感じました。また、それに続く「探求の流れを確認しよう」から「理科室の決まり」までの巻頭部分もよく整理されていると感じました。また、本編もレイアウトや字体が見やすく、紙質も軽めであり、扱っていてストレスを感じない教科書だと思いました。さらに、「音の世界」という章の扉に使われている打ち上げ花火の写真では、花火という光を見て音を感じさせられ、非常に感心しました。その他には、目黒区内を走るバスの写真も大きく掲載されていました。

これらの理由からA社とE社を選びました。

○教育長

各委員の意見を伺いましたが、A社を4名の委員が推しており、E社を3名の委員が推しています。今回2社を残すということですので、A社とE社でよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○教育長

それでは、理科についてはA社とE社を採択候補として、次回7月30日で1社に絞りたいと思います。

ここで、議事の都合により暫時休憩とします。

(午前10時13分から午前10時14分まで 休憩)

- 教育長 休憩前に引き続き協議を再開します。  
次は、技術について協議します。技術の発行者は3社ですので、この中から本日は2社に絞りたいと思います。
- 委員 技術の教科書も、生徒にとって将来非常に役立つと思う内容が書かれていて感心しました。私はB社とC社を選びました。  
B社は、技術を見て、知って、それを生かして未来をつくっていくという順序で各章が構成されており、学ぶことの意義が非常に分かりやすいと思いました。また、写真と説明図が大きくて分かりやすいと思いました。さらに、B社には「スキルアシスト」という別冊がついており、道具の使い方や安全上注意すべきことが書かれていて、内容がコンパクトで素晴らしい別冊だと思いました。  
次にC社ですが、一つひとつの説明が非常に詳しく書かれていて感心しました。また、家庭科の教科書にも登場する「ギカット」、「ミカタ」というキャラクターが、教科書の見方や各教材の考えるべきことなどを示しており、生徒の思考力が養われるように配置されていると思いました。さらに、「技術の匠」についての話がいくつも掲載されており、将来の職業選択の一助になるのではないかと思います。
- 委員 私もB社とC社を選びました。  
B社は、先ほどの委員と同様に別冊が非常に良いと感じました。全体の図やイラスト、本文の解説なども生徒に分かりやすく書かれていると思いました。  
次にC社ですが、学習の流れが「目標」、「レッツスタート」、「学習課題」、「本文」、「活動」となっており、「活動」では言語活動や深い学びを促す活動、提案などが行われ、最後に「まとめの活動」があります。そのような学習の流れが生徒にとっては学びやすく、同時に教員にとっても指導しやすいと思いました。さらに、巻頭の「技術の見方・考え方」が、社会からの要求、環境への負荷、安全性、経済性という4点でまとめられており、それが全編を通して編集の方針になっているところが良いと思いました。また、各章に問題解決例があり、最初に「問題の発見、課題の設定」、2番目に「解決策の構想」、3番目に「製作」等の実際の活動があり、4番目に「評価、改

善、修正」が行われ、最後に「新たな問題の発見」という、5段階の問題解決に特化したページがあり、非常に良いと思いました。加えて、技術分野に必要な技能や安全な作業のポイントなどをまとめた「テックラボ」というコーナーがあり、工具・器具の扱いや安全・衛生のポイントなどが分かりやすく示されています。さらに、各編の終わりに「すごいぞ！技術」というページがあり、社会課題に挑戦する技術について紹介されています。これも生徒に夢を与えるような内容になっていると思いました。また、キャリア教育につながる様々な専門家の紹介を行っており、生徒自身がその職業に就く就かないにかかわらず、現在の日本社会の中でどのような人たちが活躍しているのかを理解できて良いと思いました。

○委員 私もB社とC社を選びました。B社、C社とも、まず技術を学ぶうえでの安全性について分かりやすく解説しているところが良いと思いました。

B社は「スキルアシスト」という別冊がついており、使いやすいと思いました。また、学習課程について「見つける」、「学ぶ」、「ふり返る」というステップを明示し、単に技能を身につけるだけではなく、生徒に学ばせるという観点が良いと思いました。

次にC社です。加工作業の順序について写真やイラストで解説しており、その配置や記載の仕方がよく整理されていて、見やすいところに好感を持ちました。また、C社は「プログラミング手帳」が巻末についており、これがデジタル化社会に対応するものであると思いました。

以上より、B社、C社を選びました。

○委員 私は、報告書の教員の意見を参考にしたうえで自分の目で見、全体的にやさしい色味で見やすいと思い、好感の持てるA社とC社を選びました。

A社は、巻頭にアニメに登場する秘密道具を実現しているかという内容のページがあり、このようなテーマから始まるのはとても夢があると感じ、惹かれました。

○教育長 技術分野については、おそらく生徒は技術分野とは何だろうという疑問から始まると思います。そのため、まずは学習内容の全体構成が分かりやすく示されているかどうか、そして学習を進めるうえで必要な技能ができるだけ具体的に示されている

かどうか、そういった観点で選びました。選んだ2社はA社とC社です。

C社については、表紙を開くと、ごく簡単な導入文の後に、見開きの非常に見やすい目次があり、技術分野で大きく4つの技術項目について学ぶことと、各項目において何を学ぶのかということが一覧できます。それに続いて、技術分野全体のガイダンスがあり、技術分野を学ぶことの意義と可能性がよく示されていると思いました。そこから各項目に入っていく、例えば今後ますます身近で重要なものとなる「情報セキュリティー」や「情報モラル」の問題については、情報の検索や発信、サービス利用に当たっての便利な点や注意すべき点を対照させて丁寧に示している点が中学校の教科書として適当だと思いました。

続いてA社です。A社はC社に比べると、例えば表紙から目次までに少しページ数を費やしているところや、技術の最適化の視点について複数の製品を示している点は良いですが、「Wants」、「安全」、「環境」、「経済」の4項目の出し方がレイアウト的に統一感がなく、少し目立たないのが惜しいと思いました。

最後に、B社についても非常に迷ったのですが、別冊のハンドブックはとても良いと思いました。ただし、現場から別冊がついていると紛失が多くて困るという意見も聞いており、ここではA社とC社にしました。

○教育長 皆さんの意見を伺い、C社については5名全員が推しました。そしてB社については3名が推したため、B社とC社を採択候補とし、次回1社に絞るということでよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○教育長 それでは、B社とC社を採択候補とします。  
ここで、議事の都合により暫時休憩とします。

(午前10時14分から午前10時25分まで 休憩)

○教育長 休憩前に引き続き協議を再開します。  
次は家庭について協議します。家庭の発行者は3社ですので、この中から本日は2社に絞りたいと思います。

○委員

A社とC社を選びました。

まず、A社についてですが、構成が「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」という順になっており、家族・家庭分野について、幼児の発達なども含めてかなり詳しく書かれていて良いと思いました。また、この教科書だけ「自立し ともに支え合う生活へ」という表題が非常に大きな文字で書かれており、このテーマに沿って全体が編集されていると感じました。さらに、単元の構成が「学習の目標」、「本文」、「生活とつながる課題」、「考えてみよう、調べてみよう、やってみよう」という流れになっており、生徒も学びやすく、教員も教えやすいと思いました。

次にC社ですが、技術分野と同様に、学習の流れが生徒にとって把握しやすく、教員にとっても指導しやすいと思いました。家庭分野の初めのページが、「自立を目指して」、次に「共生を目指して」、そして「よりよい生活、よりよい未来」でまとめられており、家庭分野に対するイメージを持てるように書かれていると感じました。「実習を楽しく安全に進めよう」も丁寧に書かれていると思いました。さらに、家庭分野の見方、考え方が「協力・協働」、「健康・快適・安全」、「生活文化の継承・創造」、「持続可能な社会の構築」の4つにまとめられ、丁寧に説明されており、これが家庭分野の編集の方針になっていると感じ、とても良いと思いました。また、家族・家庭の機能が5つに整理されており、これも編集意図がよく分かると思いました。調理関係では参考例が多く、この調理の流れで実習を行えば美味しい料理ができると感じたため、非常に良い実習例だと思いました。また、「いつも確かめよう」というコーナーで、調理に関するページでは計量の仕方や器具の使い方など、裁縫に関するページでは裁断やミシン縫いなどを整理しており、非常に確認しやすく、分かりやすいと思いました。さらに、幼児の発達についてイラストや写真で興味深く書かれているところや、幼児とのふれあい体験の流れとふれあうときのポイントが書かれているところも良いと思いました。

○委員

内容については同じように充実しており、3社の間にそれほど大きな差はないように感じました。私は家庭という教科は、授業のコマ数も限られており、どちらかという社会に出ていくために衣食住についての最低限の知識を習得する科目だと考

えています。そのため、実用的な観点から学ぶことができ、卒業後も利用できるような教科書であるかという見方で選びました。その観点から、B社とC社が適切ではないかと思いました。

C社については、衣食住のうちの食についてレシピが多く掲載されており、教科の導入も食から入っているところが実用的だと思いました。

B社は食についてもきちんと示しているうえで、例えば繊維の比較表などが記載されているなど、衣食住のうちの衣についても適切に学ぶことができると思ったため、好印象を持ちました。

最後に比較の問題なのですが、A社については少し写真の大きさなどがばらばらで統一感に欠けると感じたため、B社とC社を選びました。

○委員

私はA社とC社を選びました。

学習内容が学習指導要領に準じた「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」の順で配置され、明確に枠組みが示されている点ではA社とB社になると思ったのですが、B社には1点気になるところがあるため選びませんでした。その理由は、「先輩に聞こう」というコーナーに登場する男性保育士の方が、他の先輩は本名を出しているのに、その方だけニックネームしか出ていなかった点です。そこに、少し不信感を持ち、選びませんでした。

次に選んだA社の気になる点について述べます。災害時の調理に関するページで、調理に使う袋について、耐熱性の高い高密度ポリエチレンが適していると書かれていますが、実際には高密度ポリエチレンでも湯煎の際に鍋にビニール袋がつくと溶けて破れ、中に水が入ってきってしまうと思います。こうなると、災害時に1食が無駄になるうえ、余計なストレスがかかることになってしまうため、「鍋の底にお皿を置く」という一文を入れてほしかったと思いました。ぜひ検討いただきたいと思います。

B社も同じくポリ袋を使った調理のところで、鍋に袋を入れている写真があり、それはイメージしやすく良いと思いました。やはりお皿があると良いと思いました。

○委員

A社とB社を選びました。

まずA社ですが、他人や社会とのつながり方を重視しつつ、

内容が充実していると思いました。また、ページ下部には豆知識や参考情報が書かれており、学習した知識をさらに深められるように設計されていると思いました。衣食住に関する写真も大きく、非常に分かりやすいと思いました。さらに、教科書をガイドするマークが用意されており、注意すべき点が分かりやすく示されていると思いました。

続いてB社ですが、各章に「学ぶ」というステップがあり、学習目標を立てやすいと思いました。写真も大きくて見やすいため、包丁の使い方や針の使い方などが分かりやすく、説明も良いと思いました。また、地球環境問題も取り上げていて、この内容も素晴らしいと思いました。

○教育長

私はA社とC社を選びました。

まずA社については、「家族・家庭生活」の項目で、現在の家族、家庭の多様性についてかなり多くのページを割いてきちんと伝えようとしており、これからの中学生の教科書として求められるところだと思いました。また、家庭での防災対策についての記述が充実しており、前回は巻末に折り込みページを含めた記載があったと記憶していますが、その形式のままでも見やすかったのではないかともしました。

次にC社ですが、こちらは同じ発行者の技術分野と同様に、表紙を開けるとごく簡単な導入文の後、見開きの非常に見やすい目次があり、家庭分野の全体像が非常に把握しやすくなっていると思いました。さらに、それに続いて家庭分野全体のガイダンスがあり、各項目に入っていく中で、印象的なところが大きく2点ありました。1つは「家族・家庭生活」の項目で、こちらはA社に比べて非常にコンパクトではありますが、アニメや漫画に登場する家族などを紹介するという分かりやすい形で、やはり家族の多様性を伝えていると思います。もう1つは、「食生活」の項目ですが、料理の写真が、器の選び方からして非常に気配りされていると感じました。また、1日に必要な食品の種類の見せ方も、まず全体を見せた後で個別の食材を大きく見せるという見せ方が大変上手だと思いました。さらに巻末で、家庭分野の学習を今後どう生かしていくかについてよく書かれていると思いました。

○教育長

意見を伺いましたが、A社とC社を4名が推していますので、今回はこのA社とC社の中から1社に絞ることにしたいと思い

ますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長            それでは、A社とC社を採択候補とします。  
                              ここで、議事の都合により暫時休憩とします。

(午前10時41分から午前10時42分まで 休憩)

- 教育長            休憩前に引き続き協議を再開します。  
                              次は本日最後の種目です。英語について協議します。英語については6社ありますので、この中から本日は3社に絞りたいと思います。

- 委員                3社ということですが、私は2社を選びました。  
                              まず、英語学習では、英語に関する知識・技能や外国に関する知識を学ぶこと、外国語を学ぶことによってコミュニケーションを図ることの2つのポイントがあると考えています。どの教科書もそれぞれのポイントについて十分な内容であり、見た目も非常にきれいで、英語を学ぶのが楽しくなるような教科書だと感じました。

                              ただし、英語の学習を深めていくためには、やはり「文法」も非常に重要であると考えています。もちろん英単語をたくさん知っていれば、その単語をつなげることで何らかのコミュニケーションを図れるとは思いますが、英語的な思考を習得し、外国人と内容のある会話を交わすためには文法が不可欠だと思います。そのため、各単元、章ごとに文法をきちんと記載しているか、文法を重視している教科書かという視点で選びました。

                              その中で私は、C社とF社を選びました。

- 委員                私が選んだのはC社、D社、F社です。  
                              いずれの教科書も内容が素晴らしく、デジタルコンテンツも充実しているため、家に持ち帰って家庭学習も行うと非常に良いと思いました。その中で、C社の教科書はサイズが小さく、持ち帰りに最も適した教科書だと思います。さらに、C社は身近な事柄からだんだんと興味が広がっていくような構成だと感じました。取り上げている題材も、地域、文化、環境問題、宇宙など、非常に豊富だと思います。また、3年生の教科書

には、今の中学1年生が小学6年生だった時に観劇した題材が出てきます。そのため、この教科書を使用すると、観劇した当時の光景が蘇り、懐かしさを感じられると思いました。

次にD社です。イラストの影響かもしれませんが、他の教科書と比較して圧倒的に日本らしさを感じさせないつくりになっていると感じ、逆にそこに惹かれました。

続いてF社ですが、小学校の教科書と構成や語彙、紙面デザイン等が共通しているため、小・中学校間の効果的な接続を図ることができるとの記載が調査研究委員会の報告書にあり、それは良いことだと思ったため選びました。また、3年生の教科書に、目黒区民センターでイベントをしたことがある壁画アーティストの方が載っているため、生徒は身近に感じるのではないかと思います。

#### ○委員

私が選んだのはA社、C社、D社です。

A社を選んだ理由ですが、巻頭の「Let's Start」のページに、小学校で学んだことが非常に上手く組み込まれており、導入の仕方が良いと思いました。さらに、将来英語を話すうえで重要な要素だと考えているBe動詞やcan、do、willの使い方が、日常会話例の中で上手に説明されており、分かりやすいと思いました。加えて、内容もSDGsや世界的な視点のものから、身近なものまで多岐にわたり、実用的だと思いました。また、「Target」では、文法について分かりやすく説明されていると思いました。

続いてC社です。各章ごとに「How to Use」というコーナーで、その章に出てきた文法が分かりやすく説明されていると思いました。さらに、2年生の教科書の「Attract Japan culture」で、日本の伝統が英語で示されており、英語をより身近に感じることができるのではないかと思います。

最後にD社ですが、「聞いてみよう」、「話してみよう」の後に、まとめとして「Listen & Read」があり、実用的英語教育の進め方として優れていると思いました。また、巻頭で紹介されている楽しそうなキャラクターが、より身近に英語を学べるように導いてくれると感じました。内容もSDGs、貧困といった世界的な問題や、日本の子どもたちの楽しい出来事、ビートルズの歌詞など多様であり、非常に興味深いと

思いました。

○委員

D社、E社、F社を選びました。

全体的にデジタルコンテンツが非常に豊富であり、今の生徒は学習しやすくてうらやましいと思いました。

D社、E社、F社に共通なのですが、単元と本文の構造が非常に良く、様々な工夫が凝らされていると思いました。例えばD社は「About Me」という、自分について語る課題があり、また、最終目標として「Goal Activity」が設定されています。それは、自分自身で考え、話したり、書いたり、読んだりする姿勢、能力を養うように工夫されていて、さらに、それらを非常に小さいステップで学び進めることができる構造になっており、非常に良いと思いました。加えてD社は、「Take Action」というコーナーで、現実的な場面を設定して会話をする「Talk」、必要な情報を聞き取る「Listen」、必要な情報を読み取る「Read」の3つが用意されていて、実践的な場面を用意している点が良いと思いました。その他にも、社会的な課題について物語や説明文を読む「Reading Lesson」や文法や構文をまとめて整理した「Language Focus」など、総合的な活動課題のプロジェクトがあつて良いと思いました。防災や環境問題、日本の伝統文化などについても取り上げていて、良いと思いました。

次にE社です。単元の構造は先ほど述べたとおりですが、例えば自己表現する「Action」があり、良いと思いました。また、「Our Project」では、例えば3年生は「レストランにSDGsの取組を提案しよう」、2年生は「海外でヒットするラーメンのCMをつくろう」というテーマについて、生徒が共同で作業しながら分かりやすい説明を考え、実際に発表するという学習の流れがとても良いと思いました。さらに、例えばアフリカで甲子園プロジェクトを推進している日本人の話や睡眠の質に関する話、バスケットボールの起源やルールについてなど、多様な内容が掲載されていて非常に興味深いと思いました。その他にも、「英語早わかり」というページで、文法や構文の整理を行っているほか、「Step」というコーナーで、魅力を伝えるためのコツなどの表現の工夫の仕方が示されています。また、「Coffee Break」には、有名

なアニメのキャラクターが登場し、生徒の英語に対する興味・関心を高めるページになっていると感じました。

次にF社ですが、単元の流れについては他の2社と同様に良いと思いました。さらに、視点を変えて読解のポイントを読むというような活動が入っているのも良いと思いました。また、内容も食の多様性やユニバーサルデザインの意義、エシカルファッションなど、様々な内容があり興味深いと思いました。日常の場面での使用を想定した「Real Life English」や、様々なジャンルの英文を読む「Let's Read」等も良いと思いました。

#### ○教育長

まず6社のうち4社の判が他教科の教科書よりも縦長であり、英語の教科書がなぜここまで大きくなければならないのかという疑問を感じました。

英語については、小学校時代の学びとの接続、そして何よりも英語に対して苦手意識を生じさせないこと、そういった視点から3社を選びました。B社、D社、F社です。

まずB社については、判の小さい教科書ですが、巻頭で「なぜ英語を学ぶのか」について、その利点が述べられており、さらに「どのように学ぶのか」について、ハードルを上げすぎることなく分かりやすく示されています。また、巻末資料で1日の生活時間帯の流れに沿った表現やSpeakingのヒントが紹介されており、さらに「英語の学び方ガイド」が非常に具体的で、全体を通して英語の学習に子どもたちが積極的に向かってみようと思わせる構成になっていると感じました。

次にD社は、1年生の巻末資料の「教室で使う英語」で、先生から生徒へ、生徒から先生へ、また生徒同士の間でよく使われる表現が一覧で示されていたり、会話表現のコツが示されています。本編でも教室内での対話がよく設定されていて、実際にコミュニケーションを図る場面で活用する力を養える教科書になっていると思いました。

続いてF社です。1年生の教科書が「中学校英語の世界へようこそ！」から始まり、本編に入っても、小学校の学習のふり返りが繰り返しなされ、さらに巻末の「CAN-DO リスト」で小学校から中学3年までの間にできるようになることが一覧になっており、小・中学校のつながりに対し非常に配慮した教科書だと思いました。

- 以上からB社、D社、F社を推すこととしました。
- 教育長 意見を伺い、C社を推した方が3名、D社が4名、F社が4名、他の社は一人ずつですので、C社、D社、F社の3社を採択候補としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それではC社、D社、F社を採択候補としたいと思います。以上で、本日の教科書採択の協議を終わります。ここで、議事の都合により暫時休憩とします。

(午前11時から午前11時1分まで 休憩)

- 教育長 休憩前に引き続き会議を開きます。次に、日程第2を議題とします。

(日程第2 令和6年度学級閉鎖等の状況(7月12日現在)(報告事項))

- 学校運営課長 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等がありますか。
- 委員 学級閉鎖を行った小学校についての表のうち、「コロナ陽性(欠席者)」の欄に、「児童2名(欠席8名)」と記載がありますが、これはコロナ陽性者が2名で、欠席した人は陽性かどうか分からないということの意味しているのでしょうか。
- 学校運営課長 当該学級において欠席の児童が8名のうち、コロナ陽性が判明している児童が2名ということを示しています。
- 教育長 その他ご質問等がありますか。  
特にないようですので、この報告を受けました。
- 教育長 その他なにかありますか。  
特にないようですので、以上で本日の定例会を閉会します。

(午前11時3分閉会)